

## 緊急雇用対策で外来水生生物駆除作戦

大阪府環境農林水産総合研究所「水生生物センタ - 」  
内藤 馨

淀川のワンドと天然記念物イタセンパラは中学校の教科書で自然環境を学ぶ分野に掲載されるほど日本の河川環境のシンボリックな存在となっている。しかし、近年のワンドは外来水生植物に覆われ、ゴミが散乱し、水面下では外来魚が凄まじく繁殖している。このような状況の中、平成 18 年からイタセンパラの生息確認が途絶え、絶滅の危機に瀕している。また、これらに関する情報はテレビや新聞などでたびたび報道され、社会問題化している。

そこで、水生生物センタ - ではこれら外来水生生物の生態を調べるとともに、低減化のための駆除効果調査を行ってきた。これら駆除効果調査で開発した技術を活用し、緊急雇用創出基金事業で雇用した方々にお手伝いをいただき、平成 21 年度から淀川ワンドの自然環境再生試験に取り組んでいる。

### 調査場所と方法

平成 22 年度は 6 月 1 日から平成 23 年 3 月末日まで、外来魚は大阪市旭区城北ワンド No. 34、35、36、37、38、39 において、人工産卵床での産着卵、人工藻場トラップ、アイカゴ、地曳網による仔稚魚や親魚の駆除を行っている。このうち、No. 34、35、36 の 3 カ所は重点地区として休日を除いてほぼ毎日集中的に駆除を行っている。また、城北ワンド全域でナガエツルノゲイトウを中心とした外来水生植物の駆除を実施している。

### 結果

11 月までの駆除結果は、外来魚では No. 34 から No. 39 全体でオオクチバス 2,483 尾、ブル - ギル 40,701 尾を捕獲した。重点地区は、No. 34 がオオクチバス 348 尾、ブル - ギル 7,184 尾、No. 35 がそれぞれ 264 尾、9,496 尾、No. 36 がそれぞれ 529 尾、11,829 尾であった。推定生息尾数から算出した駆除率は、No. 34 がオオクチバス 71.0%、ブル - ギル 81.7%、No. 35 がそれぞれ 97.1%、49.6%、No. 36 がそれぞれ 60.5%、70.6%であった。

また、外来水生植物は、ナガエツルノゲイトウが平成 21 年度の 222 トンの駆除が奏功し、今年度は 2 トン程度の駆除にとどまり、その他の植物も少なくなっている。

### 今後の方向

緊急雇用創出基金事業が終了した後、関係機関、市民団体等と協力して、駆除活動を継続していく必要がある。この駆除活動が市民活動に発展し、淀川流域全体に広がることが望まれる。